



国会請願へむけて、会長を先頭に署名を訴える同盟新潟県本部



406

編集発行人 針谷宏一
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・全労連会館

電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462
http://www17.plala.or.jp/chian
定価 50円

いま “ 政治は変えられる ” 請願署名で多数の紹介議員を

米兵女子暴行事件に抗議する沖縄県民大会（三月二十三日）は、雨の中六千人がつどい、「少女に代わって私たちが怒りの声をあげる」と米軍犯罪に対する激しい怒りが再び爆発、米軍基地再編反対・縮小・撤去を求める国民の世論は全国に広がりました。

国民の切実な要求が「ねじれ国会」を作り出し、大企業の正規雇用の拡大など「政治は変えられる」という確信がつよまっています。支持率が低下する一方の福田内閣は、その窮地脱出を海外派兵恒久法づくりや新たな改憲議員同盟など、日米同盟・財界優先の政界再編が大連立を策動し、さらに党利党略で小選挙区制の手直しも画策しています。

同盟の国会請願は五月十三日です。参議院では民主党はじめ野党が多数をしめており、これまでの請願活動と異なり、紹介議員が増加する局面も展望できます。

同盟創立四〇周年という記念すべき年、再び戦争と暗黒政治をゆるさぬ私たちの運動は、「政治を変える」大きなうねりの一翼をになっています。請願署名を広げ、国会請願を成功させましょう。

主 な 記 事

- 国会請願へ、署名行動最後の追い込み…………… 2
- 『抵抗の群像』を読む 畑田重夫…………… 4
- 顕彰碑／布施辰治…………… 5
- 時の焦点／「横浜事件」の最高裁判決…………… 5
- 抵抗の群像／木村京太郎…………… 6
- 同盟歌壇／碓田のぼる選…………… 7
- 書棚／羽淵三良著「現在映画評論」…………… 7

五月の国会請願へ 各地の署名行動、最後の追い込み

五月十三日の国会請願へ向けて、全国各地の同盟会員の皆さんが署名行動に全力投球中です。映画「母へえ」や「多喜二」ブームといわれる今年、治安維持法に対する関心も広がり、同盟も創立四〇周年、三・一五弾圧八〇周年という記念すべき年にふさわしい状況です。ここで各地の取り組みを紹介します。

青森県

五〇七四筆、団体二一〇。署名は目標の八三%。県内では弘前支部の奮闘が大きく、署名目標の三八%に。民主団体の集会に参加して署名を訴えているのが宣伝にもなっている。署名を勧める会員は三割弱。これを増やしたい。知人・友人・隣近所への訴えは教訓的。

秋田県(県ニュースより)

目標二万。一万一〇八〇筆、団体七六八。この到達の八〇%が秋田支部によるもので、五〇%に満たない支部も多い。四月下旬を最

終集約とし、各支部は残る期間、総会で確認した自主目標を達成する段取りを具体化し、全会員に署名用紙を届けて協力を呼びかける。労組・民主団体をお願いした署名を残さず回収する。

山形県

九〇〇三筆、団体四〇九。一支部中目標達成支部は山形、鶴岡、酒田の三支部。地方議会請願採択を活用して紹介議員に署名を依頼。社民党市議(山形市)から労組など六〇〇筆(昨年四〇〇筆)集約されている。

福島県

二七五二筆、団体六四。会員の高齢化が進んでいるが、四月を特別月間として取り組む。労組・民主団体に「署名のお願い」を送る。全会員の訪問で一會員一〇筆を取り組む。

茨城県

一七八九筆、団体四〇。三月七日の日本共産党演説会で署名統一行動、十一名の参加で二〇一筆の署名(過去最高)。

団体の協力では署名集約が遅れたが、オルグ等を強める。

埼玉県

三三七五筆、団体三一。県下坂戸市の会員が中心に毎年労組への申入れで従業員全員からの署名をいただが春闘後に集約となる。

毎年の三・一一三重税反対で署名の訴えが定着。

東京都

一万二八五三筆、団体一九一。全国水準を下回っているが、全会員運動、申し入れてある団体への再要請集約を強める。

神奈川県

五六九七筆、団体九三。三・一一三重税反対統一行動は例年の取り組みで、各支部とも行動に入った。二月段階で支部役員会で討議した支部は団体署名も前進している。



作家の五木寛之は、今の日本は「うつの時代」だと言っているそうだ。彼が何を指して言っているか知らないが、出口の塞がれたようなこの国の「乱れ」を、作家らしい感性で表現しているのではないか。石川啄木が「時代閉塞の現状」を書いたのは一九一〇年、今から百年前。啄木は大逆事件に衝撃を受け、弾圧の元凶としての強権(天皇制)に突き当たり、社会主義に傾斜していった。先頃、共産党の志位和夫委員長と経済同友会終身幹事の品川正治氏の「響き合い対談」を読んだ。両氏はおおいに意気投合して、憲法九条を誇らかに語り、アメリカべつたりの日本資本主義のゆがみを指弾した。さらにASEANをはじめ、ラテンアメリカでもアフリカでも平和と友好の共同体が発展していることに触れ、品川氏は「私なんかも...『新しい社会主義』ということを考えざるをえなくなるんです」と財界幹部としては驚くべき発言で対談を結んでいた。夢のある対談に勇気をもたらした。(佐)

静岡県

一二二六筆、団体四五。新し

い分野に協力を広げる取り組み、女性部確立のための女性史講座の参加者組織と結びつけた労組・団体への協力の申入れ。これまでの実績を当たりきる労組・団体訪問、個人の協力など各支部の取り組みが強まっている。特徴として、「母べえ」鑑賞運動が労組・団体

名七五を越えたい。

三重県

署名は現在二二八八筆、団体八三。月一回の理事会は開いてきているが、役員の任務が十分果たされてない。今後週単位くらいで署名依頼・集約をしたい。

和歌山県

三三七七筆、団体一八七。三・一三重税反対集会では四カ所、七九四筆。高教組が分会まで取り組んでいただき六〇〇筆近い集約

石川県

一一三三筆、団体一〇七。

滋賀県

二二五七筆、団体一三。労組の協力でここまでできたが、会員の取り組みが遅れている。三・一三重税反対集会も県本部の取り組みが大事。会員をオルグし目標に突進

富山県

昨年実績一三〇〇筆、団体署

一三重税反対行動で六会場、八五

兵庫県

五七三一筆、団体八七。三・

五筆 三支部の取り組みで全体の推進力(全体の六六%)になっ

ている。小西副会長が訴えをつくり、知人、活動家に直接署名をわたし、三八五筆集めた。

鳥取県

四五〇九筆、団体一六四。三月十五日現在で昨年最終四二二六筆を越えた。

これは 医療生協労組・国公関係・学校等団体の協力 自主目標を突破し前進する女性部 個人協力者、力持ち会員の奮闘 支部体制を強めている西部支部の努力に支えられてきた。今後全会員に依頼した活動スタイルを追求。

広島県

一八七〇筆、団体一〇二。集会等で役員中心に署名を集めている。民主団体等への団体署名と労組組合員からの個人署名を再度訴えていく。

徳島県

三月十五日に県本部総会を開催。「蟹工船」を上映、参加者八〇人

に署名をいただいた。

高知県

三六〇八筆、団体六四。県下四支部中二支部が目標達成。ここでは目標達成のための支部会議を開き取り組み強化の意思統一をした。

高知市役所の労組が昨年に続き組合全体の署名(昨年は四〇〇筆)を集めていただいた。「母べえ」を観た体の不自由な女性が今日五筆また五筆と集めていただいたり、治安維持法犠牲者が親類にいたという人からカンパと署名一〇筆が届けられた。

福岡県

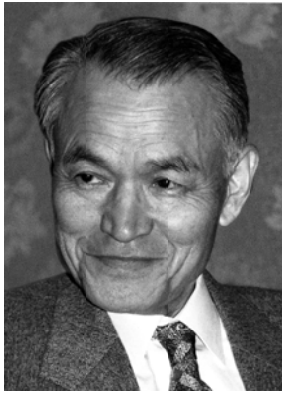
九九〇〇筆、団体二二〇。福岡支部五〇〇〇筆、直方支部四〇〇〇筆。

川口伊智子副会長は五〇〇筆を越える署名を集めた。署名用紙は各支部と各会員に返信用封筒を同封して三月十五日に届けた。

長崎県

取り組みが遅れた。今後メーデーや赤旗まつりなど、集会でも大いに取り組みたい。

国会請願の日は五月十三日(火)午前11時。集会所は衆議院第一議員会館第一会議室。



マルクスが、娘たちから、「あなたの幸福感は何？」と尋ねられたとき、「たたかうこと」と答えたのは有名な話です。私が愛好するチャーリー・チャップリンも、「人生とは息つくひまもないたかいの代名詞である」と述べています。そんなのです。誰しも、一つしかない人生です。その人生を生きる意義はどこにあるのかを考えない人はいないはず。私たちはいま閉塞感ただよう二十一世紀初頭の日本の社会に生きています。目先の問題だけに眼をうばわれていると、結局、明日、明後日に流されてしまっただけです。やはり、大切なことは、「歴史に学び、現実をみつめ、未来をきりひらく」という見地だ

不屈にたたかっこそ

【特別寄稿】『抵抗の群像』を読む

畑田重夫



みの「母べえ」、小林多喜二ブームともいべき出版、講演会などがそれぞれです。先駆者たちが残してくれた経験や教訓を生かしてこそ、いまのたたかいや運動が重みや厚さを増すのではないのでしょうか。

本書は、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟の機関紙「不屈」に連載されてきた「抵抗の群像」とりまとめて、同盟40周年を記念して刊行されたものです。一読し

と意思します。心強いことに、ちかごろ、ようやく日本でも映画というジャンルを通して、あるいは地道な顕彰活動の成果としての出版物や講演会などによって、「歴史に学ぶ」という風潮が醸成されてきました。日本国憲法にかんじての映画「日本の青空」、治安維持法から

て感動を覚えるのは、この日本にも、若いころから、たたかいつつ学び、学びつたたたかっ先輩たちが無数にいたという事実を具体的に知ることができるということ

です。数年前、私が八十歳を迎えたときに、全国の教え子、知人・友人たちが、「傘寿記念誌」として

『感動あれば生涯青春』という本を刊行して私にプレゼントしてくれました。私はこの『抵抗の群像』を通読して、新たな感動を覚え、また、また一歩青春に近づいた感じ

です。「治安維持法って何?」「教育勅語って?」と思っっている若い人たちにとくに心をこめて本書を推せんしたいと思っっています。青年というのは、どんな時代でも、この国でも、無条件に、もっとも

純粋で、もっとも正義感に富み、もっともエネルギーや行動力に富んでいる世代の人たちなのです。ところが、いまの日本は、受験本位のため、若い人たちに日本の近・現代史を学ばせていないのです。若い人たちが日本の近・現代史にうといのは、青年達の責任ではなくて、ひとえに日本の支配層の教育政策にこそその責任があるのです。本書は、そういう日本の弱点や欠陥部分を補い、埋め合わせるに足る教科書ないし読みものとしての価値を十分にもっている確信を持っています。まさしく「群像」という言葉をうらづけるかのように、北から南まで日本列島各地に、生命がけでたたかっ先輩たちがいたことを知ることをして、自分の生きるうえで指針を見出す糸口をこの本からつかみとってほしいと願ってやみません。

(国際政治学者)

『抵抗の群像』第一集
定価一五〇〇円・送料別
ご購入は同盟各都道府県、あるいは中央本部へお申し込みを。

顕彰碑
探訪

「世のためにいばらの道をひらきたる先覚者」
布施辰治偲び各界著名人らが建立

布施辰治は、一八八〇(明治一三)年、宮城県牡鹿郡蛇田村(現石巻市)の農家に生まれました。一九〇二年明治法律学校(明治大学の前身)を卒業し、判事検事登用試験に合格し、一九〇三年東京弁護士会に登録しました。

一二年、神戸の三菱造船と川崎造船の大家議の中で上村進弁護士らと自由法曹団を結成、共産党弾圧の三・一五事件大阪統一公判では、懲戒裁判にかけられ弁護士資格をはく奪されました。その後、日本労農弁護団の一斉検挙で懲役二年の実刑で、再び弁護士資格をはく奪。戦後は、自由法曹団の再結成、日本労農救援会(後の日本国民救援会)中央委員長、三鷹・



松川事件、メーデー事件の弁護など、正義と真実を求めて、明治大正、昭和の五十年間を民衆の弁護にささげ、一九五三(昭和二八)年九月十三日逝去。享年七十二歳。碑文は「世のためにいばらの道をひらきたる 先覚者」裏には「布施先生三周忌にみんなでこれ建てた 一九五五年九月十三日 発起人 秋田雨雀、大山郁夫、松本治一郎、馬島備、平野義太郎、黒田寿男、細川嘉六、藤森成吉、長野国助、渡嶋淡、細迫兼光、関鑑子、小野俊一、中村高一、久松儀作、神近市子、上村進、河原崎長十郎、神道寛次、田坂貞夫。実行委員 難波英夫、宮崎政三、韓升元、浅野万次郎、太田慶太郎、山本辰雄、青柳盛雄、南巖、許基運ら十六人 他三〇名」と刻まれ、活躍の広さをつかがわっています。

布施家墓所(東京都豊島区南池袋2-20-7常在寺)に建っています。(田中幹夫)

焦点の時

治安維持法の廃止と、被告全員釈放を「大赦」としています。

「横浜事件」の最高裁判決

すでに太平洋戦争がはじまっていて、拡大する侵略戦争に国民をかりたてるために、最後のジャーナリズムの息の根を止めようとしたのが「横浜事件」。ことし三月十四日、最高裁は上告を棄却して「免訴」の確定判決。「免訴」とは、犯罪の有無をたしかめることなく裁判を打ち切る処置で、法律が廃止されたり、有罪判決の効力をなくす「大赦」がおこなわれた場合の判決で、一九四五年十月十五日の治安維持法の廃止と、被告全員釈放を「大赦」として、歴史的断罪がされる可能性があります。

横浜事件の特徴は、一九四二年から四五年にかけて長期的な弾圧事件、約六十人逮捕され、そのうちの半分三十人が敗戦後の八月、九月になって有罪判決を受けた。特高警察は占領軍からの処罰を避けて、裁判関係資料を焼却、証拠隠滅をはかった。四人を獄死させるほどはげしい拷問と女性被告人に性的暴行、陵辱が行われた。戦後七年たって、その拷問・陵辱の犯行者として特高

警察官二人が処罰されたことなど。最高裁判決は、本来東京高裁に差し戻し、新証拠にもとづき再審をおこなうよう指示すべきでした。裁判所は再審を決定しながら、三審を通じていざ本番では一切再審をしない奇妙な判決に推移。再審がおこなわれると、特高警察の凶暴な拷問と陵辱の実相が世に明らかになれば、横浜事件にとどまらず治安維持法関連事件のすべてが、当時の天皇制政府と裁判所の権力犯罪として、歴史的断罪がされる可能性があります。

政治決着こそ残されている課題だとおもいます。(元)

抵抗の群像



部落解放と国民融合をめざして

木村京太郎のこと

一九二二年三月三日、京都市岡崎公会堂で全国水平社の創立総会が開かれた。日本共産党の創立大会が開かれる四カ月前である。水平社創立の中心になったのは、い

ずれも奈良県南葛城郡掖上村柏原の阪本清一郎、清原一隆(西光万吉)、駒井喜作の三名で、いずれも二九歳から二五歳までの青年であった。

「水平社」の名は、阪本清一郎が、一七世紀にイギリスの農民が労働者とともに決起した「リベラーズ」(水平者)にヒントを得て名づけたものである。水平社宣言は西光万吉の作で、冒頭の言葉「全国に散在する特殊部落民よ団結せよ」は、マルクスの共産党宣言の最後の一句、「万国の労働者団結せよ」にならったものである。

「水平社はかくして生まれた。人の世に熱あれ、人間に光りあれ」

と水平社宣言は結ばれている。この水平社によって、木村京太郎の人生に熱と光が与えられた。

木村京太郎は、阪本らの育った柏原から五キロ余りの地、南葛城郡大正村小林(どちらも今は御所市)に一九〇二(明治35)年六月十九日に生まれた。京太郎が二歳の時に父が亡くなり、十歳の時に母が他家へ再婚したが、祖母が京太郎の兄と姉、京太郎の三人を育てた。

京太郎は小林小学校を卒業して御所高等小学校へ進むが、全く祖母と兄のおかけだった。高等小学校では、教師からも生徒からも部落差別の言動を受けたが、京太郎はそれにへこたれず、二年間皆勤一九一六(大正5)年三月に優秀な成績で高等小学校を卒業した。

京太郎は中学へ行きたかったが、そんなことが言える家庭の状況で

はなかった。卒業後は親代わりの兄の家業である麻裏草履製造業を手伝った。勉強好きの京太郎に、兄は当時の通信教育であった大日本国民中学会(会長尾崎行雄)の講義録を取り寄せてくれた。

昼は家業を手伝いながら中学講義録で勉強し、夜は週三回農業補習学校に通って、教わるよりも助教をつとめた。学校の教師になつて、青年や村人に自覚を促し、差別を受けられないような部落にしたい。自分も差別されないような人間になることが念願だった。

高小卒業の翌年、六〇人ほどで小林青年団をつくり、十六歳の若さで青年団長に選ばれた。一九二二(大正11)年四月に大正村にも高等小学校ができた。この学校で開校の翌月、生徒間に部落差別事件が起こった。小林区民大会で「差別待遇廃止」などの要求をまとめ、翌日青年団を先頭に三百名ほどがラッパを吹いて学校へ行進。校長に決議文をつきつけた。御所警察署から「事情を聞きたい」と呼び出され、そのまま拘留、起訴され、七〇日余り監獄暮らしをし

た。これが木村京太郎の最初の権力との闘いだっただ。

大正村小学校事件は、水平社をはじめ全国の解放運動者の関心を集め、木村京太郎の名は広く知られた。兄と二人で家業に励むという生活はできなくなった。木村京太郎は全国水平社本部常任理事となり、各地の闘いに参加し、水平社の機関紙発行に力を注ぎ、同志たちとの連絡、情報交換に意を注いだ。そして一九二八年の三・一五弾圧で逮捕・投獄され、治安維持法違反で五年、福岡連隊事件で三年の計八年の懲役刑を受けた。

戦後、新しい条件の中での解放闘争が始まった。部落解放運動の中に部落民以外は全て差別者で敵だとする潮流が現れた。木村京太郎は、部落解放運動の中に分裂をもたらし、人民のたたかいに困難をもたらすこの一派を厳しく批判した。社団法人部落問題研究所を設立し、常任理事として部落問題を正しく、理論的に説明する仕事に力を注いだ。一九八八年六月十一日死去。八五歳。

(同盟奈良県本部 上野 晃)

同盟歌壇

碓田のぼる選

「鬼は外」と言いつつ八十路の我が心欲の鬼ども居座り続ける
 評 自分の中に住む欲を鬼と歌っているが、よく読むと積極的な意欲をことう表現したようにも思える。

東京都 すゞ木すみ江
 北斎館出でし信濃は春浅く雪解の風が頬を逆撫つ

評 春浅い信州への旅行詠である。北斎館は、栗菓子で有名な小布施にある葛飾北斎の美術館である。

東京都 若林 義文
 改憲派の極右首魁の中曽根より先には死なぬ非戦の吾は

評 戦後きつての改憲推進派の中曽根元首相が生きている限り、たまたかのために死なぬとする強い決意。

静岡県 江川 佐一
 花もちて演壇に立つ平山さんからだ全体で「ちひろ」を語る

評 「平山さん」がかりに不明でも「からだ全体で」の表現で、その人柄も、ちひろの魅力も浮かぶ。

宮崎県 天水 貞照
 コマ打ちて山にねかせし二年間実りの秋は心待たるる

評 「森林ボランティアで、シイタケ原木へのコマ打ち」と附記してあった。その成果を待つ心である。

和歌山県 中平 喜祥
 「大逆事件」が観光資源になるといっわが人生も遙かなりけり

評 上句と下句のつながりがわかりにくい、「大逆事件」の真実が理解されなかった時代の回想。

岐阜県 和田 昌三
 漬物もワインも猪も持ち寄りて年金者組合の宴始まる

評 各自があるものを持ち寄るといっことで、年金者組合の宴の楽しさが具体的に表現されている。

福井県 元山 章一郎
 紅梅のいまをさかりと咲きにける署名の足もしばしとどめつ

評 署名活動の「コマ」。作者は紅梅の咲き誇る姿に心が奪われている。一首に安らぎの思いがある。

東京都 山崎 元
 選挙後に大連立の企図あればわが命題は大き躍進

評 体制の行きつまり打開を、国民無視の大連立にかける画策、それゆえに国民の立場に立つ真の革新を。

注・毎月の原稿締め切りは十五日です。ご協力をお願いします。

書棚

「現在映画評論

羽瀨三良著

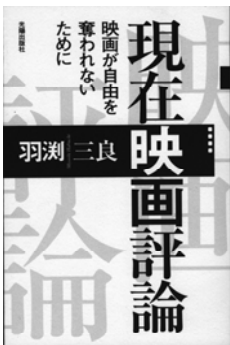
映画が自由を奪われないために
光陽出版社刊 定価七〇〇円

二〇〇五年から〇七年までの二年間、小泉純一郎自公政権がイラクに自衛隊を派兵、国内にあつては貧困と格差を広げた弱肉強食の「構造改革」路線を強引にすすめた。これを引き継いだ安倍晋三政権は、防衛庁を防衛省に、第二の憲法といわれる教育基本法を改悪、憲法改正のための国民投票法も強行採決。日本の戦後を否定し、戦前への回帰をしゃにむに推進した。が、〇七年七月の参院選で破綻し、政権を投げ捨てた。その後誕生した福田康夫政権も「構造改革」路線とアメリカ力追随の基本は変えていない。本書はこうした情勢下の映画界の状況と映画評論をまとめたものである。

第一章、映画が自由でなかった頃、映画法の時代、映画を二度と戦争の道具にしないために、第二章、憲法九条を守りぬく映画人の活動、第三章、山田和夫のシネマ&レクチャー・レポート、第四章、二〇〇五年から〇七年の外国映画、第五章、二〇〇五年から〇六年の日本映画、第六章、〇七年反戦反核平和へ高揚する映画と映画人、から編まれている。

その中で第四章では、『白バラの祈り』をはじめ十一本。第五章では『太陽』など八本の評論は、私事ながら見たいと思いつつながら見損なつた映画の紹介でありがたい。

第六章は、安倍内閣の憲法九条を改悪し「美しい国づくり」「戦後レジームからの脱却」の動きに、多数の映画人が立ち上がり、反戦平和、反核、日本の現実と真正面から向き合つ映画が困難ななかで旺盛に制作されたことを立証している。(幹)





三・一五弾圧80周年 同盟創立40周年記念特集 「治安維持法と現代」 08年春季号

近日発行の「治安維持法と現代」
○八年春季号は、三・一五大弾圧
80周年、同盟創立40周年特集号で
す。
荒川庸生氏の「東京高裁不当判決」と松井繁明弁護団長の「司法は『権力の笛』を吹くな」。
「わが郷土の顕彰運動」は、

三・一五特集では、荻野富士夫・小樽商科大学教授の「三・一五事件連鎖 小林多喜二に触れて」をはじめ、東京・山崎元、大阪柳河瀬精、京都・岡本康、愛知・田中邦雄、兵庫・佐野陽三、福岡・堺広毅各氏の「わが郷土の三・一五」。六十八年後に公開された帝國議会衆院本会議秘密会での政府の「共産党事件の報告」と、衆院委員会での山本宣治議員の「三・一五事件追及」の議事録。
創立四〇周年特集では、同盟中央本部の「声明」、斎藤喜作元同盟中央本部事務局長と、中央顧問・松崎濱子、宮城・大川芳夫、島根・金栗ひろたか、大分・立川義人の犠牲者四氏の思いと期待など。「実証・治安維持法弾圧」は、「山代吉宗 その道」香川泰司氏、「葛飾ピラ事件」では、原告・

「反戦川柳作家鶴彬の顕彰碑を大阪城に」大阪「岩佐ダン吉氏、「労働運動と共産主義運動の先覚者片山潜」岡山「片岡五百樹氏。「日本と世界の戦争博物館」は、中国山西省の「八路軍太行記念館」根本トモ才氏。
「話題を読む」は「映画『母へえ』の主人公に寄せて多喜二の火を継いできた新島繁」藤田廣登氏。「林直道スケッチ 一百営業参道」「レッド・パージ」田中光春氏など、学習の好材料が満載です。
山形県鶴岡支部「池田勇作・妻郁を追悼する会」に二五〇人参加
三月十五日、鶴岡生協「こびあ」で開かれ、地元鶴岡市出身の治安維持法犠牲者池田勇作・郁夫妻の残された文学作品をまとめた遺作集『魂の道標へー池田勇作と妻の

奇跡」が池田道正氏によって出版されたことなど報告され、元衆院議員松本善明氏は講演の中で、「全国各地にまだまだ多くの犠牲者がいる。今後調査活動を進めてほしい」と期待が寄せられました。(鶴岡田川支部 須藤美也子)

第61回解放運動無名戦士追悼会ひろく



第61回
解放運動
無名戦士
合葬追悼
会が三月
十八日東
京・日比
谷公会堂

で行われ、新たに一〇五〇人が合葬。治安維持法同盟の推薦では、中西三洋会長をはじめ石坂貞人元理事長、青山照明、渡辺夕ヶ、吉田千代子三人の元副会長など四名が合葬されました。同盟は毎年、「実行委員会」に参加し、追悼会成功のために貢献しています。今年もメッセージの紹介を小池荘

一事務局次長が行いました。

三月の寄贈図書

「日本の軍事費」巨大な無駄と利権 安保破棄中央実行委員会 頒価四〇〇円
「反戦・平和へ 先駆けた青春」久木興治郎 不屈のたたかい」西田清 滋賀県本部 頒価五〇〇円
「秋田・反骨の肖像」工藤一紘 イズミヤ出版 定価一六〇〇円
「ガイドブック 小林多喜二の東京」編集委員会編 学習の友社 定価一〇〇〇円

事務局日誌

3月8日 国際女性デー中央大会
3月11日 国際人権活動日本委員会幹事会
3月14日 「9条世界会議」実行委員会
3月15日 「多喜二の文学を語る つどい」協賛
3月17日 「不屈」編集会議
3月18日 第61回 解放運動犠牲者合葬追悼会
3月19日 同盟40周年記念行事実行委員会
3月20日 「3・20」中央集会